

5月の生活表

2022年 5月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：心地よく

・保育日数（18日）

月目標：<3歳児>

- ・日常の中で保育者や友だちと聖歌を歌い、お祈りし、神様を身近に感じる。
 - ・自分の好きなことや遊びをしながら、周りの子供や 保育者を感じる。
 - ・木々の葉空の色吹く風などに心を澄ませ自然の中に生かされている心地よさを感じる。
- <保>一人ひとりの遊びや生活の様子をとらえ、連携をしながら個々の思いに寄り添う。

<4・5歳児>

- ・神さま・イエス様が一緒にいてくださることを喜び、安心する。
 - ・好きなことに心を寄せ、自分らしさをもって過ごす。
 - ・春から夏への移り変わりの中、心身を開放し、喜んで過ごす。
- <保>一人ひとりの声（言葉）をゆったりと聴き、思いを受け止める。

新年度が始まって1ヶ月。明後日にはバスに乗って行く「植物園」への遠足が待っています。この1ヶ月のお子さんの様子はいかがでしょう。新しいお友だちとの人間関係は、それぞれうまくいっていますか。「はじめの一步」がスムーズに踏み出せたあとは、この幼稚園が「心地よく」過ごせる場所なんだということに気づき、気持ちの良い目覚めが、毎日の登園に繋がっているのであればとても嬉しいと思います。ここでのいろんな新しい「こと」に出会い、小さな「社会性」が育まれていることを様々な経験を通して体得して行って欲しいと願っています。いつも見てくださっている神様との繋がりもできてきましたね。

子どもたちが自分の興味関心を何に向けているのか、したいことを見つけ、今日は何で遊ぼうかな？と考える。そして意欲をもって遊びに入り、それに没頭できるくらい集中できるのなら、それはそれは素晴らしいことです。もちろん年齢にもよりますが、自分の好きな遊びのみではなく、設定保育での子どもたちの様子は、集中して先生のお話を聴き、取り組む姿が見られるのは、これ新学期？と疑いたくなるような光景です。既に集団の経験のある場合も多い昨今ですが、入園式後に心細くなって「泣く」という場面に遭遇しなくなりました。朝から自ら遊びを選び、周囲の物や人との関わりを持とうとするのは「学び」の芽生えでもあります。そして、「学び」が生まれてくることは、対話を豊かにするということにも繋がります。社会性の芽生えにも通じるものです。そして、好奇心や探究心などがそれぞれの経験値によりどんどん培われていきます。薫風の中、新緑が輝くこの心地よい季節に、まず自主的に主体的に遊びに入り込める朝の自由時間を大切にしたいと思います。小さな園でしか出来ないゆったりした十分な関わりを持って、元気な毎日を過ごさせてあげたいのです。

《チャプレンコーナー》

5 月月間主題：心地よく

月聖句：子どもたちをわたしのところに来させなさい。

(マルコによる福音書 10：14)

イエス様にお祈りしてもらおうと、多くの人々がイエス様の周りに集まっていた。その中に、子どもたちを、イエス様の側に連れていこうとしている人々がいました。きっと元気な子供たちだったのでしょう。時には、やかましく感じるほどの元気さだったのかもしれませんが。弟子たちは、子どもたちを連れてきた人々を叱りました。「こんなにやかましくては、他の人のお祈りの邪魔になる」と考えたのかもしれませんが。けれどもイエス様はその弟子たちを叱り、冒頭の言葉を述べたのち、次のように言いました。「子どもたちを妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておくが、子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」イエス様の教えは、多岐にわたりますが、それでも「子どもを大事にする」というのは、はっきりしており、一貫した教えの一つです。イエス様は、子どもを大事にすることを、最も重要な教えの一つにしており、神様の救いに与るためには、子どもから学ばなければならない、としています。そして、子どもを傷つけることを、イエス様は決して許しません。イエス様は、子どもを叱った弟子たちに「憤られた」と記されています。この言葉は、ものすごく厳しい言葉であり、子どもたちへの攻撃を、決して赦さないイエス様の気持ちが表現された言葉です。

子どもを大事にし、愛するのは、誰であろうと大人の義務です。自分の子どものことはもちろんのこと、全ての子どもを大事にしなければなりません。子どもを愛することで、私たちは人生で最も大切なことを学び、神様から祝福を受けるのです。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

- ♥ 季節の変わり目の健康には十分に気をつけましょう。
 - ・規則正しい生活と、バランスのとれた食事を心がけましょう。
 - ・帰宅後の手洗い、うがいをしっかりしましょう。お風呂（シャワー）・シャンプー・耳あか・爪切りなど、清潔に保つ術を子供達にも知らせてください。
 - ・コロナ感染への予防に努めましょう。
- ♥ 神様の恵みに感謝しましょう。
 - ・登降園の道々で神様が下さった命を探し、命あるものを大切にしてみましょう。
 - ・幼稚園の送迎を通して四季（春から初夏への移り変わり）を感じてみましょう。
- ♥ 自宅でも、自分で出来ることを探し、自信が持てる機会を作りましょう。
 - ・身辺自立に向かって一つずつ挑戦し、自分でできることが増えていきますように。
 - ・大便の後始末が出来るように、また紙の使い方もご家庭で教えてあげてください。（特に女子は、菌が入らないように拭き方に気をつけましょう。）
- ♥ 母の日を通して、身近な人たちの事を考えてみましょう。
 - ・家族の名前・年齢・仕事などを知らせ、みんなの働きによって日々の生活が成り立っていることを知らせましょう。
 - ・大好きなお母さんのお仕事に触れ、喜んで頂けるお手伝いを考えてみましょう。
- ♥ お友達と仲良く遊べるようになったらいいのにね。
 - ・お休みの間もお友達のことを考え、思い出しながらお電話しあってみるのもいいですね。

<クラス便り：各担任より>

<花組>

園庭の湿った葉っぱを捲っては『ダンゴムシ』探しに勤しむ子ども達。青葉の眩しさがとても気持ちよく、心地よく爽やかで、園庭遊びが楽しい季節です。これから泥んこ・砂遊びのお着替えのお土産が度々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

入園式から間もなく一ヶ月が過ぎようとしています、もうずっと前から一緒に過ごして来たかのような穏やかな時間が流れている花組さんの保育室です。

小花ちゃんからの進級のお友だち4名、Pre-Preクラスからの進級のお友だち3名、新入園のお友だち3名の10名でスタートいたしました！

2022年度の花組さんですが、入園式の翌日には朝から涙の大合唱となるのかな？と心配をしていたのですが...もちろん緊張の面持ちではありますが、みんなご自分の足でしっかりと2階の保育室まで上がって来てくれました。何をするにも初めての事や、また新たな気持ちでの取り組みにドキドキとワクワクが入り交じった表情は何とも可愛らしくて微笑んでしまいます。先生の話す言葉を真剣に見聞きする姿、分からないことがあれば先生に聞いてみる。そんなことが自然に出来ること、とても大切なことだと思います。「どうしたん？」「なんで？」「どうするの？」「わからな～い！」「できな～い！」子ども達から発信される言葉や表情から私たち大人は今の子ども達に必要な手を差し伸べる、そして支え・守り・導いてあげる。子ども達が社会の中で生きてゆく為に必要な力を幼児期にしっかりと身につけてあげること、まずは先にある小学校という未来に向かって。しっかりと関わり、縦に横に交わりの時を大切にしたいと思っています。しかし、そんな大切な様々な関わりの中で私たちは今、必要不可欠となったマスクで顔の半分を覆っています。子ども達はもう丸2年それを当たり前の様に過ごしています。心を通わせる為に必要なのは言葉だけではありません。目から見て感じる様々な情報の中で大切な表情や口の動き...。これから先、いつまでマスクの生活が続くのか、未だ先は見通せません。そのことに危機感や心配を忘れず、子ども達の安全な生活を確保した上で、目から見える情報を正確に示せるように。五感を大切に、必ずや心に響くよう

にしていってあげたいと考えています。これから、あんなことやこんなこと、沢山の楽しさや喜びはみんなで共有して、心配やドキドキはみんなで分け合い分かち合って。そして、神様がいつもみんなを愛し御守りくださっていることを知り、安心して一年間を過ごしてゆきたいと思っています。

一年間、保護者の皆様とは大切なお子様を真ん中に二人三脚で連携させていただき、子ども達の幼稚園生活がより豊かな、より良いものとなりますように、ご理解とご協力を賜りながら歩んで参りたいと思います。至らない点が多々あるかと思いますが、何かありましたらご遠慮なくいつでもお申し出いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

どうぞご家族で素敵なGWをお過ごしくださいませ。

<赤組>

満開に咲いていた桜の花があっという間に葉桜へとバトンタッチし、新緑の眩しい季

節になりました。先日の休日に、とある山へ出かけましたが、山の中いっばいに広がる綺麗な緑が目飛び込んできました。緑といっても一色ではありません。深緑、黄緑、うぐいす色、、、色々な「緑」が5月を彩っているのですね。今まで「緑の山」と一括りにしていましたが、改めてよく見れば、新しい発見、気づきがあるのだと感じた瞬間でした。これは自然だけでなく人との関わりも同じであると思います。子どもたちはいつも周りの変化に敏感に反応し、興味関心をもち、そこで不思議に思ったことは「どうしてなの?」と素直に疑問をもって追求し学んでいきますが、その子どもたちの気づきをなかったことにせず、広げてあげるのは大人の役目であると思います。そのため私自身がさまざまなことにアンテナを張り、子どもたちへ伝えてあげられるようにせねばと改めて心に留めることができました。また、子どもたちは自分のことに気づいて、認めてもらえる喜びを感じ、大事にしてくれる存在がいるということで安心して伸び伸びと活動できます。困ったら助けてくれる先生がいるんだ！教えてくれる緑組さんがいるんだ！一緒に頑張るお友達もいるんだ！おうちに帰ると優しく包み込んでくださるおうちの方々がおられるんだ！と自分の周りにはたくさん安心できる場所があるんだと感じて欲しいと思います。私も赤組のお友だちの新しい気づき、発見を見逃さず、色々な声に耳を傾け、寄り添って見守っていきたいと思っています。赤組の子どもたちの安心できる居場所となるクラスになればと思って一年間を過ごしていきたいと思っています。至らぬ点多々あるかと思いますが、保護者の皆様のご指導、ご協力をいただきながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、赤組さんになって3週間が経ちました。今までは先生がお手伝いしていたことも自分のことは自分で出来るように、と少しずつ新しい取り組みを始めています。まずは「お当番さん」です。お昼前に「お当番さんよろしくね～」と声をかけると、「いつてきま～す」と2階へ。お布巾や先生のお箸・コップを乗せた「お盆」と「おやかん」を落とさないように、こぼさないように、みんな慎重に、真剣な顔で階段を降りてきます。赤組さんに入ると安堵の顔を見せ得意気です。次に「うがい」です。「食事が終わった後に、口の中を綺麗にするため」と話すと、赤組さんになったら歯磨きが始まることを、去年の赤組さんたちを見て知っていた子どもたちは「あ！歯磨き」と、気が付きました。さすがです。でも初めは、歯磨きの前にうがいからのスタートです。口に水を含み「ガラガラペー」でなく「グチュグチュペー」で、口の中を濯ぐ練習です。そしていざ実践！みんな本当に上手なので驚きました。3つ目は「牛乳をコップに注ぐこと」です。注ぐ感覚が掴めるように、まずは一人ずつ先生が手を添えて一緒に挑戦しましたが「早くやりたくて仕方がない」と牛乳瓶を手に取り、ウズウズして待つ他のお友達。赤組になって環境が変わり、緊張の毎日の中でも、新しいことは躊躇せず「やりたい！」と意欲的な赤組さん。その目と顔はとっても頼もしく可愛らしいです。これからたくさんのかたちと一緒に挑戦していきたいと思っています。

今日持ち帰って頂いた「鯉のぼり」はクラスだよりでお伝えしました「お道具箱」の中の「のり」を使って制作しました。のりの扱い方の説明で「使うお指は、、、」と私が続きを言おうとした瞬間「お母さん指！」とみんなに先をこされてしまうほど、もうバッチリです！鯉のぼりの鱗は大小2色の鱗を貼り合わせて5枚の鱗を「2・1・2」で体に貼ります。「三角お山(とんがりの部分)をぴったんこするんだよ、、、」と前で実践し

ながらの説明を食い入るように聴く赤組さん。前に材料を取りに来ると「1、2、3、、」と数えて確かめながら5枚ずつ鱗を取っている姿は完璧です。制作が始まるとシーン、、となり黙々と取り組んでいました。「できた。」と小さく呟くお友達。それほど集中して取り組んでいたのかと感心です。可愛い素敵な鯉のぼりが出来上がりました。真鯉を作った日、ご家庭でも鯉のぼりを作ったというお友達が2人いました。思い出しながらまた違ったオリジナルの鯉のぼりを作っていたそうです！(持ってきてくれた鯉のぼりはお部屋で泳いでいます)ぜひおうちでも泳がせてあげてください。

明日は待ちに待った、春の遠足です。クラス懇談会もごさいます。どうぞ、よろしくお願い致します。コロコロ変わる最近のお天気。お日様が顔を出してくれることをお祈りし、赤組のお友だちと一緒に春をたくさん見つけれれることを楽しみにしています。

<緑組>

「触って！ふわふわしてる！」桜の花びらを、おままごとのちいさなカップいっぱい集めて、そっと触れてみる…。プランターの花に水をあげながら「せんせい、なんでこんなになってるの？」と枯れた水仙の花を指さしながら不思議そうに尋ねる。お花の命が終わったのだと伝えると、「へえ～、カサカサしてるね、紙みたいだね」と隣に咲いているラッパ水仙との違いに気が付く…。そして、その花に顔を近づけて匂いを嗅いでみる「いいにおい！！」と思わず笑顔になる…。熊蜂が園庭にやってきて、子どもたちと一緒に春の園庭を散策している…こうして新しい1年は、穏やかに始まりしました。明るい日差しが射す「春」という季節は不思議と人に力を与えてくれます。子どもたちもまた、同様に進級を心待ちにし、変化することへの不安や戸惑いを覚えながらその胸に真新しいバッチをつけてもらいました。「緑組さんになる…」ということは、卒園したばかりの「あの緑組さんのようにならなければならない」という言い知れぬプレッシャーを感じていたに違いありません。それは去年1年間一緒に過ごす中で、見て・聞いて・感じてきたことが自分の身に起こるということ子どもたちなりに理解しているからなのでしょう。ドキドキしていた子どもたちも、新しい日常に少しずつ慣れ生活リズムが落ち着くころ、気負うことなく伸び伸びと「緑組」を楽しんでくれることと思います。園庭の鯉のぼりが、風の力をかりて空を泳ぎだすように、子どもたちもまた自分自身が誰かの風にかわる存在となれるように、互いに育ち合って欲しいと願っています。さて…その「鯉のぼり」…今年の緑組はパズルをモチーフにうろこの模様を仕上げることにしました。その様子は、園長先生のブログで、さらにはInstagramでは動画に挙げていただきましたが、その集中力はなかなかのものでした。せっかく作るのだから、多少の苦労（大変さ）と、面白さ、完成したときには達成感のある作品にしたい！というのが、制作するときの「ねらい」の一つでもあります。説明は簡素に、「パズル」であることは見れば一目瞭然なので、子どもたちの理解も早いものです。ただ一つ厄介なのは、20ピースあるうち、11ピースは同じ色にならないように11色の折り紙を糊で貼らねばならなかったことです。形と色を意識しながらだったので、色を取れば形が、形をとれば色が…と多少の混乱はあったものの、指先で塗る糊の扱いも慣れたもの

で、一枚いちまいのピースを、丁寧に形にはめて仕上げていきました。ゆえに...子どもたちは貼り終わると一様に「疲れた〜〜」とうなだれ、「も〜緑組、大変やわ〜」と。年齢に応じてそれぞれの取り組みがあり、その努力を自分たちで感じ取って、大変さもちょっと自慢できること、それがまた「緑組」を実感する瞬間であったりするのでしょうか。幼稚園はこんなふうに通して学びの機会を持ちます。小学校のように教科に分かれて授業が展開するわけではありません。就学前と就学後で子どもたちが戸惑うのは、こうした「学び」に対する姿勢の違いがあるのもひとつです。その小学校を見据えたとき、子どもたちがスムーズに就学できるように、基本的な生活習慣の自律、マナーの習得、状況に応じて自分で考えて行動する力を養うことは、幼稚園教育の大事な基本です。すでに始まったこの1年を通して、これらのことを踏まえて子どもたち自身の「個」の育ちと、集団として「まとまる」ための社会性を育んでいくこと...それが大きな目標です。集団の大小はありますが、基本を丁寧にすることは、何事においても応用が利くものです。はじまったばかり...一日一日を大切に、毎日が彩り豊かになるようにと願うばかりです。世界は、社会は、決して先行きが明るいとは言えません。でも、子どもたちの未来を明るく照らすために今、できることを私たちは丁寧に取り組んでいくしかないと思います。そのためにも、お家のみなさまの、ご理解とご協力を改めてお願い申し上げます。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。